

紀伊スポーツ

記録・情報は本社スポーツ係までお知らせください。
電話 0739 (24) 7171
FAX 0739 (25) 3094
メール ki-news@agara.co.jp

仲間と目指す甲子園

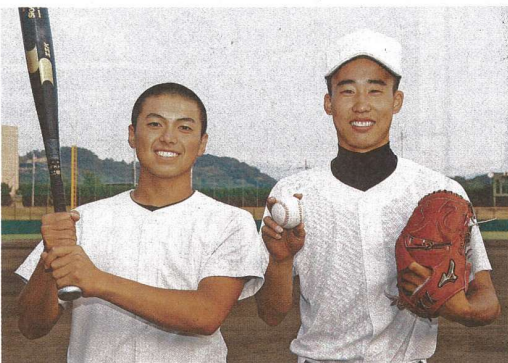
夏の高校野球 紀南10校を紹介 ①

第101回全国高校野球選手権和歌山大会(12日開幕、紀三井寺球場)で、甲子園を目指す紀南10校の練習風景や鍵になる選手を紹介する(南部、南部龍神、串本古座、新翔、近大新宮は既報)。四角の中は初戦の日程。

熊野

15日午後2時からの第3試合で海南と対戦

2人だけの3年生、主将の経験が積むことができたという青木修也君と副主将でエースの桃原大知君。1年生の頃は練習の準備が変化したと、主将を担当し「この4人でチもあつたが、同級生が少ない。チームをまとめている」と話し分、試合に出る機会が多く、ている。

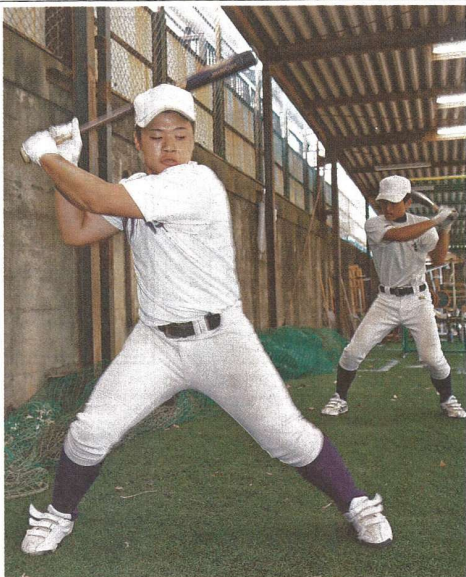


2人だけの3年生、青木修也君(左)と桃原大知君—上富田町朝来で

新宮

12日午後1時半からの開幕戦で和歌山工業と対戦

得点をあげるため打撃練習に力を入れている。攻撃面でチームを引っ張るのは、3番の東口つたためのバッティングを紀之君(3年)と4番の佐田天馬君(同)。



攻撃の鍵を握る佐田天馬君(手前)と東口紀之君—新宮市神倉3丁目

12日 紀三井寺球場で開幕

田辺

13日午前9時からの第1試合で慶本と対戦

3年生は毎年、マネージャーも含めて練習着をそろえている。今年はどうな相手でも全力で戦うという意味がある「獅子搏兔」の文字を入れた。背番号は、憧れの選手になむなど自分の好きな数字を入れている。

主将の新谷拳大君(3年)は「いつも通り基本に忠実に、自分たちの野球をしっかりとやっていきたい」と初戦に向けての意気込みを語った。

田辺工業

18日午前9時からの第1試合で新宮、和歌山工業の勝者対戦

けが人が相次ぎベストオーダーが組めない中、控え選手も含めて守備練習に力を入れている。

主将の中家大輔君(3年)は「守備は全員でカバーしてリズムをつくり、打撃に勢いをつけたい」と話している。



ノックを受ける選手の畑谷潤君(左)と前田義輝君—志田町朝来で

神島

13日午後2時からの第3試合で橋本と対戦

投手の二枚看板、左内政輝君(3年)と岩間凌輝君(同)は、入学当初から良きライバルとして競い合ってきた。

フライベートでは何の良い2人。左内君は「岩間がいなかったら今の自分はない」、岩間君は「練習から一番意識してきた相手」と、互いを認め合っている。



投手の二枚看板として競い合ってきた岩間凌輝君(手前)と左内政輝君—田辺市文里2丁目